

## ユニークな地質系博物館(シリーズ) 3. 木の葉化石園

尾上 亨<sup>1)</sup>

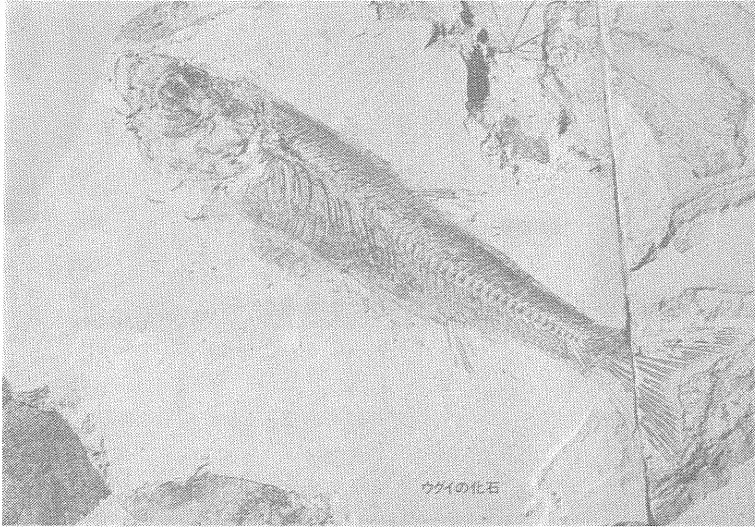


写真1 ウグイの化石(×1)

栃木県塩原町は温泉と紅葉で有名な観光地ですが、もう一つの名物として「木の葉石」があります。木の葉石は、今からおよそ30万年前の新生代第四紀更新世中期に堆積した塩原層群(塩原湖成層)と呼ばれている湖成層中に含まれている植物化石で、木の葉石と言っても木の葉っぱの化石ばかりではなく、実や花のほかシダ植物の葉も含まれています。さらに、塩原化石湖と呼ばれているかつての湖や、その周辺に生息していたウグイ(写真1)・カエル(写真2)・トンボ・ハエ・ハチ・クモ・ネズミなどの動物化石が植物化石と一緒に発見されています。これらの標本が塩原盆地の中ほどにある「木の葉化石園」に展示されています。

木の葉化石園は明治38年(1905)に開園して以来、園内に露出している塩原層群の含化石層(写真3)から化石の採取を続けており、最近の尾上(1989)の研究によれば、これまでにおよそ170種類の植物化石が発見されています(写真4, 5)。その主なものはブナ・イヌブナ・クリ・オノオレカンバ・ミズナラ・ミズメ・ヤシャブシ・ナツツバキ・カツラ・コミネカエデ・ハウチワカエ

デ・リョウブ・シナノキ・アズキナシ・オオカメノキなどで、現在の冷温帯に分布している樹種が大部分を占めています。いずれの化石も現在日本に生育している植物と形態的にほとんど変わりがなく、まるで現生の植物の葉を岩石に特殊な方法で印刷を施したかのように、保存も極めていいことから、人工的に細工したのではないかと見学者から疑われることもしばしばあるそうです。当園内にある展示室には見栄えのする植物化石90種(約300点)が陳列しており、さらに、その上の列には、塩原周辺に生育している現生の植物標本もあわせて展示して、化石との比較が容易にできるよう工夫してあります。

木の葉化石園では塩原層群から産した化石のみの展示にとどまらず、塩原町関谷から産する「塩原動物群」として有名な新第三紀中新世の貝化石(40点)やメソサウルス・シーラカンス・ウミユリ・カブトガニ・アンモナ

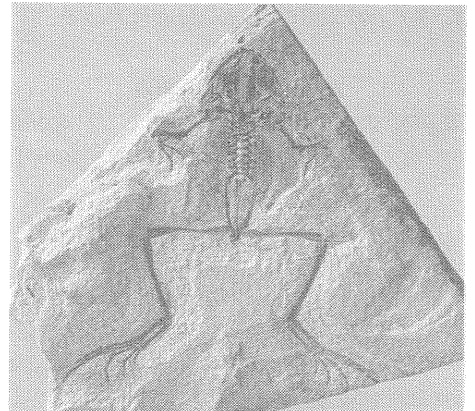


写真2 シオバラガエルの化石(×0.7)

1) 地質調査所 地質標本館  
1990年9月号

キーワード: 木の葉化石園, 地質系博物館, 植物化石

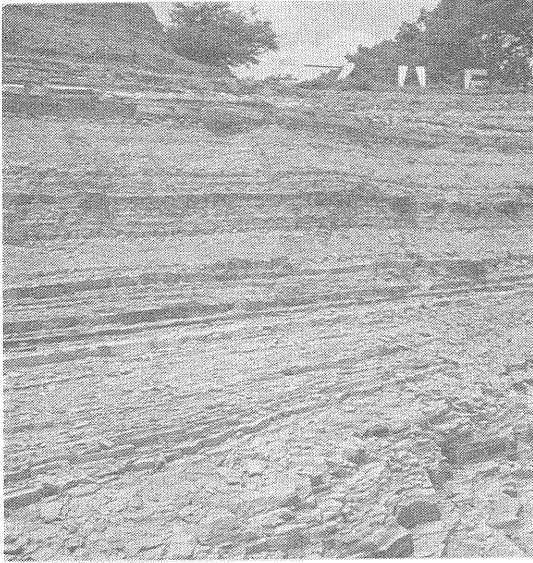


写真3 植物化石の宝庫，塩原層群



写真5 マツモの化石 (×0.8)

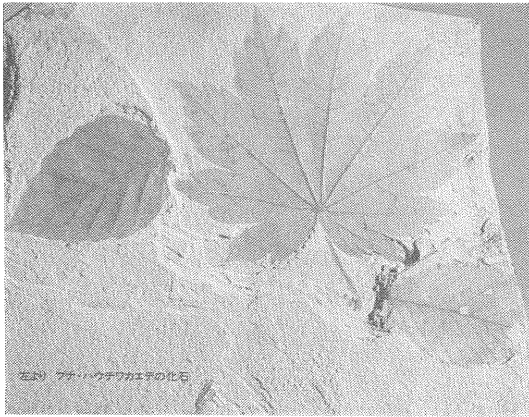


写真4 ブナ (左) とハウチワカエデの化石 (×0.4)

木の葉化石園観覧案内

入 園 料：大人 (中・高校生を含む) 400円  
小学生 200円

団体割引 30名以上 1 割引  
100名以上 2 割引

開 園 時 間：4 月～10 月 午前 8 時～午後 5 時  
11 月～3 月 午前 9 時～午後 4 時

所 在 地：〒329-29 栃木県那須郡塩原町中塩原472  
TEL 02873-2-2052

所 要 時 間：西那須野駅 (車) 45分  
那須塩原駅 (車) 45分  
那須塩原 I.C. (車) 30分

イト・エイなど外国産の化石 (400点)、国内外から集められた黄鉄鉱・自然金・エメラルドなどの鉱物標本 (400点) も陳列しており、地質に興味のある方には見逃すことのできない博物館の一つです。

木の葉化石園で採取した化石は園内の売店で置き物や学術標本として販売しています。また、化石の入った岩石ブロック (有料) を入園者自身の手で割って化石を取り出せるよう化石用ハンマーなどの道具をそろえたコーナーも設けてあって、石の割り方や化石の鑑定についての指導も行っています。

葉の形が現在の植物とほとんど変わりがないので、植物図鑑や当園発行のパンフレット・絵ハガキ・解説書などを用いて、ある程度自分で鑑定することができます。自分で岩石を割って取り出した化石に、自分で名前がつけられるので、小・中学生の夏休みの宿題などに利用される方もいます。

---

ONOE Toru (1990): Geological Museums in Japan  
3. "Konoha-Kasekien" (Shiobara Fossil Plant Garden).

---

<受付：1990年5月8日>